

みどころいっぱい 宇日・田久日

クイズの答え

この岩は礫岩の一部で岩盤にくっついていて、礫は固いので削られず、一方で周辺の細かい粒子は削られてなくなるので、礫が飛び出すようになりました。

宇日

①小石の浜



宇日の浜は丸い形をした小石でできています。波の力で石が動くことによって角が削られ、このような形になりました。ほとんど小石しかないのは、砂などの細かい粒子が波の力などで海へ流されてしまうためだと考えられます。ハート形など面白い形の小石もあります。探してみましょう！

宇日

②宇日の舟屋



小石の浜には、海側に入り口のある建物が数棟並んでいます。これは漁船をしまっておく「舟屋」です。天然の良港になるリアス海岸の入り江ですが、冬になり海が荒れると波しぶきが舟や漁具を痛めます。そこで舟屋を作り、舟や漁具を守っているのです。

宇日

③千畳



入り江の西側には畳のような平らな地形が広がっています。これは波食棚といい、岩盤が波で削られてできたものです。この岩盤は大小さまざまな角ばった石でできています。日本海ができ始めるころ、河川などで運ばれた花崗岩や火山岩の礫がここにたまり固まりました。地層の重なり模様「斜交層理」も見ることができます。

宇日

④三柱神社



集落を見守る高台にある神社です。社殿の下に敷き詰められている小石には文字が書かれています。太平洋戦争に出征する若者の無事を祈って、小石の浜の石を拾って文字を書き奉納したものと伝えられています。境内にはウミガメが奉納されており、神社近くの高台にはカメの碑も建てられています。

宇日

⑤柱状節理と水田跡



集落を上流に行くと、谷に囲まれたなだらかな土地が広がりますが、ここはかつて水田でした。リアス海岸の小さな入り江は平地が少なく、水田を作る場所がほとんどないのですが、比較的谷の傾斜が緩やかな宇日では、沢沿いの緩傾斜地に水田を作ることができました。沢沿いや道沿いでは柱状の模様（柱状節理）が美しい火山岩を見ることができます。

田久日

①弁天社



岩に空いた大きな穴の中に社があります。この岩は固い火山岩（流紋岩）ですが、長い年月の中で風化・侵食され、このような不思議な景観が作られました。弁天社の鳥居はグリーンタフでできていますが、これも風化・侵食によって不思議な造形をしています。社殿には、クジラの骨が奉納されています。

田久日

②青島（グリーンタフ）



漁船を係留するスロープの西側に緑色になった岩棚があります。緑は青とも言い表され、青い色をした島すなわち青島と呼ばれています。きれいな緑色をしたこの岩はグリーンタフと呼ばれ、日本海が拡大するころ、主に水中での火山活動によりできました。

田久日

③越中治郎兵衛（平盛嗣）の碑



新温泉町～豊岡市の沿岸には、壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平家が落ち延びたとの伝説が数多く残っています。断崖が続く但馬の海岸は、源氏から逃れるのに都合が良かったのかもしれませんが、田久日には平家の侍大将である越中治郎兵衛（平盛嗣）が流れついたとの伝説があり、高台にある公民館のわきに碑が残されています。

田久日

④三宝荒大神



集落の中ほど、東側の斜面沿いに三宝荒大神の社殿があります。岩肌に張り付くように建てられた拝殿の中は昼でも薄暗く、独特の雰囲気があります。灯籠には周辺でとれるグリーンタフが使われている一方、狛犬には島根産の来待石と考えられる砂岩が使われています。

田久日

⑤才の神古墳

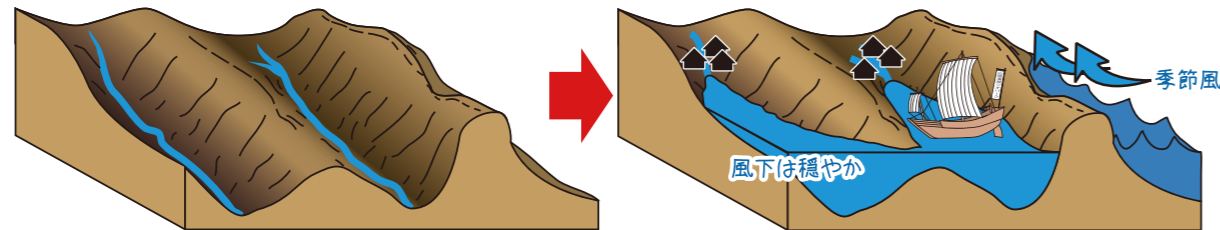


日本海を見下ろす高台にある古墳で、道路沿いに石碑が立っています。道路工事の際に、多数の土器が発見されました。このすぐ右に海岸へ下りる道があり、斜面にはかつて畑がありました。高台から見える海岸からの景色は絶景で、夜には漁火を見することもできます。

ジオコラム①

リアス海岸と人々の暮らし

リアス海岸のでき方と特徴



雨や川のカで大地が削られ、山地や谷ができる。

海面が上がり谷は入り江に、尾根は岬になる。岬は季節風を遮り、入り江は天然の良港になる。

山地や谷が海面の上昇などにより海に沈んでできるリアス海岸。宇日・田久日両地区は、それぞれリアス海岸の入り江にできた集落です。入り江周辺は生活の場にしやすい反面、海が荒れると強い風雨や高い波に見舞われます。冬になると強い風が正面から吹き付ける田久日では、防風壁や凝灰岩の棟石などで暴風や波浪への対策を施しています。家の外壁として焼杉板を横向きにはるのも対策の一つで、腐りやすい下部だけ交換できるようになっています。



焼杉板を横にはり、棟石に凝灰岩を使った家屋

ジオコラム②

日本海拡大を記録した石“グリーンタフ”

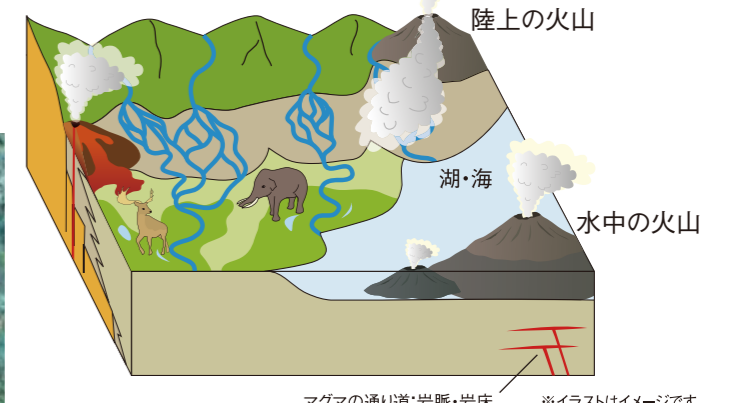
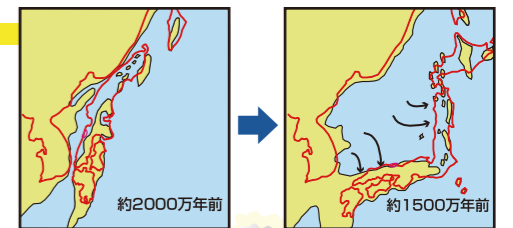
日本海が開いた約2500万年前～1500万年前、日本の各地で火山活動が起きました。火山活動が湖底や海底で起きると、火山岩の成分が変化し、緑色になることがあります（熱水変質）。こうしてできた緑色の火山岩を「グリーンタフ（緑色凝灰岩）」といい、日本海側を中心に日本の各地に分布しています。



グリーンタフの分布（緑）



青島のグリーンタフ



主に湖底や海底での火山活動でグリーンタフができる

※イラストはイメージです。

制作：宇日区、田久日区、山陰海岸ジオパーク推進協議会、兵庫県立大学 大学院地域資源マネジメント研究科